

京都自治研究 第9号 (抜刷)

2016年 6月 発行

NPO 法人 市民共同発電をひろげる城陽の会、
その後9号基に到達再生エネ・節電所講演会も開催

杉 浦 喜代一

NPO 法人 市民共同発電をひろげる城陽の会、その後 9号基に到達再生エネ・節電所講演会も開催

杉 浦 喜代一

はじめに

3・11 東日本大震災から5年が経過し、私たちのNPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会も発足して3年目を迎えました。原発ゼロの会・城陽の懐に抱かれ産声を上げ、任意団体から法人へと発展し、会員は30名から130名へ、設置に協力して頂いたソーラー発電は4kwから43kwへと、当初想定していた以上に大きく成長してきました。

発足までの様子と1年目の状況は本誌7号(2014年5月)に「手探りで始まったエネルギー地産地消の活動 NPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会、1年のあゆみ」として詳しく紹介させていただきました。今回はその後のソーラーパネル設置状況を第一部として、そして第二部として再生エネルギーの普及に取り組んだ講演会・見学会の様子を報告します。また、4月から電力の小売りが全面自由化となり、原発の再稼働を止めさせ、再生可能エネルギーを大きく伸ばすためのチャンスが到来しました。どのような電力小売会社を選択すればよいのか、電力自由化の講演会も開催しました。

原発再稼働反対・地球温暖化防止と私た

ちの豊かな暮らしを考える企画に多くの方が参加され、再生可能エネルギーによる発電や節電所(ネガワット)の活動が盛んになってきていると感じています。電力の小売り全面自由化を受けて、さらにこの動きが加速することを願っています。

第一部 太陽光発電の普及 年間3基のペース

2013年6月8日のNPO 法人設立総会、同年8月27日の法人登記完了を受け、個人宅の屋根にもパネル設置を進めていこうと、会員さんからの応募をつのりました。その結果、1号基が11月5日に、寺田深谷2号基が翌年1月24日、城陽市観音堂3号基が3月15日に点灯式を開催しました。この時点で初年度の設置基数は3、発電能力は19kwとなりました。詳しくは京都自治研究7号をお読み下さい。ここからは翌年度に設置された4号基以降の取り組みをご紹介します。

4号基 2014年度1号 城陽市寺田今堀 K氏宅発電所 3.6kw

2014年5月12日、時々雨の降る日では

ありましたが元気に点灯式が行われました。ご近所の方も含め12名が参加されました。出力は3.6kw。原発ゼロの会・竹本代表が「設置をお祝いします。原発ゼロになったらどうするのかの答えがここにあると思う。昨年のNPO立ち上げ後2年目で4基、ささやかだけれど速いスピードで普及がすすんでいる、これからもがんばって欲しい。」とあいさつ。これにこたえて設置者から「2・3年前からつけないと思っていた、ようやく実現した。朝6時に太陽がのぼるとともに発電を開始、夕方6時ごろに仕事を終了する。毎日楽しみにしながら発電状況を見ている。昨日、一昨日はよく晴れて、10日は21.7kwh発電して17.8kwh売電、11日は20.9kwh発電で18.3kwh売電、晴れている日にはよく働いてくれる。エネルギーを供給してもらう立場から、供給する立場へと変わった。ひろげる会で設置してもらったことは2つの大きな意味があります。一つは屋根があまり広くなくても出来るということ。それ程広くなくてもそれなりに出来るということ。もう一つはお金がなくても出来るということ。ひろげる会からお金を全額借りることが出来るので、(ハードルが高くない)開始できる。太陽光発電がどんどん広まっていく一つの刺激になればと思っています。」と設置の動機などを喜びの声で伝えてくれました。

地元会員の方が節電の意識が大きく働きだした、しかし意識を変えるということはなかなか難しい、もっとたくさんの家に太陽光発電を普及させようと挨拶されました。業者の方は今回のパネルはパナソ

ニックの製品でこれまでの設置パネルより効率の良いものを使用、南と西の屋根に設置していることなどを説明されました。

5号基 2014年度2号

城陽市寺田丁子口Y氏宅発電所 4.6kw

2014年度2基目となる5号基発電所の工事が完了、関電との連携システムも開始された8月30日、午前10時から設置者家族と地元会員のみなさんなど17名の参加で点灯式が開催されました。開沼副理事長のあいさつや設置者の思い、施行業者からの発電設備の説明などが行われました。



5号基発電所点灯式

6号基 2014年度3号

城陽市寺田西ノ口N氏宅発電所 3.7kw

5号基の翌月、9月21日に6号基の点灯式が行われました。あらす祭り事務局長その他で多忙な毎日を送っているNさんですが再生エネルギーに寄せる熱い思いがあり太陽光発電を設置されました。今回の設置費用は従来の会員の設置協力金以外に一部公的融資が含まれています。公的融資は京都府・京都市・京都中央信用金庫な

どの協働による「きょうと NPO 支援連携融資制度」です。この制度は昨年創設され、府内に事務所があり公益活動をしている NPO を資金面から支援するものです。本会にとっても新しい一步を築いたおひさま発電所の稼働です。3.71kw、年間予測発電量 3874kwh です。点灯式にはご近所の方など 12 名の参加がありました。

6 号基の設置で合計発電能力は 31.345kw となりました。

7 号基 2014 年度 4 号

京田辺市田辺北川 N 氏宅発電所 4.8kw

京田辺では初めて、私たち市民共同発電では 7 基目となる発電所の点灯式が 2015 年 2 月 27 日午前 10 時から行われました。京田辺と城陽の会員、知人など 19 名が集いおひさま発電所の点灯式が行われました。あいにくの曇り空でしたがおひさまパワーで LED 電球を灯し、いつものテーマソング、「手のひらに太陽を」をみんなで歌い、開設をお祝いしました。

京田辺で原発ゼロをめざして活動しておられる団体のメンバーがこの発電所建設に大きな協力をされました。

8 号基 2015 年度 1 号

宇治市琵琶台 T 氏宅発電所 4.0kw

8 号基発電所の工事は 8 月に無事終了しました。宇治市での第 1 号発電所です。9 月 4 日に宇治、城陽、京田辺の会員有志 15 名が点灯式に集いました。

挨拶の中で土居代表は「電力買取価格 (FIT) が下げられ、太陽光発電普及の環

境は厳しくなったが、原発ゼロ、地球温暖化防止のために、という原点を大切に頑張ろう」と呼びかけました。設置者の方は「以前、他の設置業者にこの陸屋根への設置は無理と言われたが、今回、屋根に穴を開けない工法で設置出来て良かった」と感想を述べられました。夏の電力消費ピーク時には太陽光発電の貢献が大きかったことや節電の工夫その他、参加者全員が一人ひとりの想いを述べ合いました。宇治・城陽・京田辺の 3 都市の会員がそろった今回の点灯式は、和やかな雰囲気の中で、原点を確認し合い、次への元気を養う場となりました。

8 号基の稼働で合計発電能力は 40kw を超えました。



8 号基発電所点灯式

9 号基 2015 年度 2 号

城陽市枇杷庄知原 T 氏宅発電所 3.6kw

2015 年度第 2 弾となる 9 号基は 2016 年 1 月 25 日に点灯式が開催されました。点灯式には近所の方や京田辺の方など 15 人が参加して行われ、土居代表より、厳しい寒さの中参加された方々への感謝の言葉と共に、再生可能エネルギーによる発電をひ

ろげる活動をしてきたが、今年度は節電活動にも力を入れ始めた、と挨拶されました。

設置者の方は「5年前から農業を仕事にしており、自然の大切さを学び始めた直後に3.11大震災が起きた。自然エネルギーへの転換の大切さに気付かされたこともあり、今回のように太陽光パネルを自宅に設置する市民運動に参加できてうれしい。」とあいさつ。設置者のご家族からは多くの方々の力添えで太陽光発電設備が設置できたことへの謝意が述べられました。

設置業者の方からは太陽光発電の普及環境の変化について、①次年度の買取価格予想と共に固定価格終了後は推定で10円

台の買取価格になりそう、②これからの新築住宅では発電、蓄電、断熱が標準になる、などの情報が寄せられました。

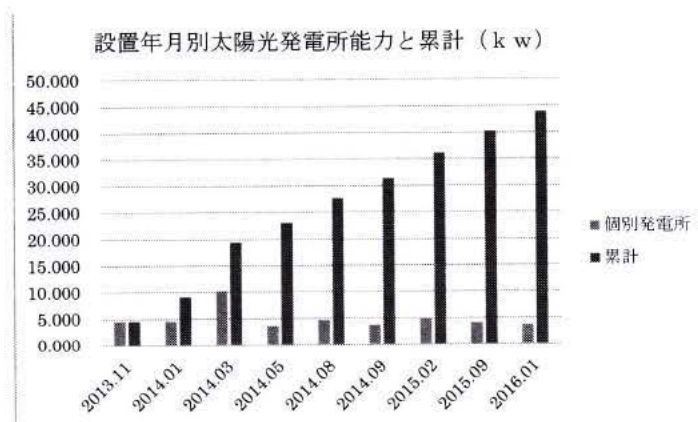
参加者からは、パネルの設置後は節電意識が高まったとの話がありました。また、原発停止期間を全国民が体験し、原発なくても電気は足りていたことを知り、原発ゼロの運動への自信が持てたとの話もありました。

これまで述べてきた発電所の設立を1～3号機も含めて表とグラフに表すと以下の通りとなります。

1～9号基のまとめ

発電所	稼働年月	発電容量kw	場 所	備 考
1号基 I 氏宅	2013.11	4.560	寺田深谷	13年度1号基
2号基 U 氏宅	2014.01	4.560	観音堂巽畑	13年度2号基
3号基 D 氏宅	2014.03	10.260	寺田深谷	13年度3号基
4号基 K 氏宅	2014.05	3.600	寺田今堀	14年度1号基
5号基 Y 氏宅	2014.08	4.655	寺田丁子口	14年度2号基
6号基 N 氏宅	2014.09	3.710	寺田西ノ口	14年度3号基
7号基 N 氏宅	2015.02	4.800	京田辺市田辺北川	14年度4号基
8号基 T 氏宅	2015.09	4.080	宇治市琵琶台	15年度1号基
9号基 T 氏宅	2016.01	3.660	枇杷庄知原	15年度2号基

※点灯式実施月をひらいました。 合計 43.885kw



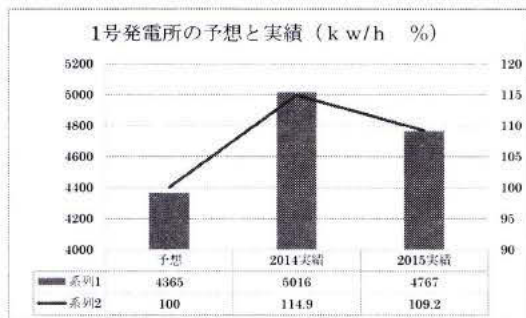
13年度に3基・19.380kw、14年度は4基・16.765kw、15年度では2基・7.740kwとなり、3年間で設置数9基、43.885kwに到達しました。年度平均3基、14.628kwになります。FIT（固定価格買取制度）による買取価格が経年的に低下している状況下では設置数・施設能力が漸減傾向にあるのは否めません。しかし、原発由来の電力に頼ることは危険が大きいことの認識の深まりや、再生可能エネルギーに対する期待が高まってきていることをこの間の活動で感じています。今年度も設置の希望が寄せられて10号基・11号基設置にむけた取り組みがはじめられています。また、これからは蓄電池との組み合わせを取り入れ、エネルギー収支を可能な限りゼロとする取り組みもますます重要な活動分野となると思われます。再生可能エネルギーと節電・省エネの暮らしが当たり前になるように、これからも私たちのNPO活動を展開して行きたいと思えます。

これまで述べてきました各家の屋根に取り付けた太陽光発電装置（ソーラーパネル）の発電能力はそれぞれのメーカーが公表している数値で示しています。実際の発電量はどのようになっているのかを1号基（城

陽市寺田深谷）のデータで見ってみました。左下のグラフで示したように予想発電量を100としたとき、2014年は114%、2015年は109%、平均112%の値が得られました。1号基は予想発電量よりも10%程度多く発電しています。2号基でも年間予想発電量4797kwhに対して5317kwhの発電量があり、10%程度多く発電しています。また、8号基は昨年10月から2月まで、5ヶ月のデータが寄せられています。この発電所では予想発電量1187kwhに対して1277kwhの発電がおこなわれていました。予想量に対して107%になります。3例ではありますが、これらのデータから設置されたパネルはメーカーの公表発電能力はクリアして、10%程度は上回る発電を行っていると言えそうです。

私たちの仲間が設置したパネルは43.885kwの能力を持っています。そしてその予想年間発電総量は42888kwhですので1kwのパネルが年間におおよそ977kwhの発電を行っています。先のデータから実績は47176kwhと推測されます。1世帯当たり平均年間使用電力は4432kwh（資源エネルギー庁 H24年）と言われていいますから、10世帯分以上の電力を十分賄うことができます。数字の上では電力に関してはZEH（ネット・ゼロエネルギー・ハウス）を達成したことになります。

ソーラーパネル発電能力・予想と実績



第二部 再生エネ・ネガワットの講演会

NPO 法人の総会などを利用して再生エネ・ネガワット（節電所）の講演会を開催して、太陽光パネル以外にも多様な再生エネルギーがあることや、節電は発電と同じ

ことなどの講演会を開催してきました。特に昨年10月に開催したネガワットの講演会は、京都府の地域力再生プロジェクト交付金事業に採択されたことも受けて、講演内容を地域にどのように返していくのかの視点をもって取り組みを行いました。その具体化として、福井と長岡京の商店街でのネガワット実践例の見学会と城陽市での節電所つくりを考える検討会の開催につながりました。

2014年5月24日

「脱原発・自然エネルギーと地域づくり」
講師 渡邊 信夫氏 城陽市東部コミセン

講師の渡邊氏は冒頭、大飯原発運転差し止め請求の勝利判決に触れ、「いのちの上にそろばんを置いてはならない」と訴えられました。そして私たちが市民共同発電と言う形をつくり4号基まで設置したことに対して敬意を表されました。

また、ドイツでは「100%自然エネルギー地域」づくりに首長も一市民も真剣に取り組み「村のお金は村に」と「地域エネルギー資源を域外企業には売らない」を合言葉にしていることや100万都市のミュンヘンでも100%自然エネルギーを目指していると話されました。

そして「日本はエネルギー大国です。城陽の自然エネルギーを是非調査してください。太陽光や風力、風力では九州大学と京都の会社が研究・開発したレンズ風車があります。5kwで500万円ぐらいですからまだまだ補助

金無しでは普及は難しいのですが、量産体制に入れば価格はぐんと下がり求めやすくなると思います。城陽のみなさんには資源調査（風や太陽光・水力など）や市に対して『再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例』の制定を働きかけて下さい。」と訴えられました。

2014年11月22日

「もったいない 省エネはトップの意識から」
講師 神野 勝氏 城陽市・鴻巣会館

省エネと再生可能エネルギーを考える講演会の第1回目として宇治市でLED照明やサイン用LEDを生産しておられる会社の創業者に省エネをテーマにお話いただきました。同時に省エネ器具や手回し発電機などの展示や体験も併せて行いました。

講師の神野氏は、LED電球の使用やトイレの蓋を閉めることなど少しの気遣いで節電・省エネにつながることを、そしてそのように意識付けることは何よりも“トップ”（会社であれば社長、家庭であれば親）の判断です。

LED照明は白熱灯の1/10、蛍光灯の1/2、水銀灯の1/5の電力量で同じ明るさが確保でき、また、寿命は電灯の5千時間、蛍光灯の1万時間に比べ4万時間もあり、取替えの手間等を考えれば省エネと省力化の点で大いに優れていることがわかります、として次のように話されました。

「会社が省エネに取り組みだしたのは、1997年の京都議定書に触発され、

京都の企業から省エネの発信をしようとしたことがはじめ。社内や工場の部分消灯とLED化で60%の節電をはじめ太陽光発電の導入やミストシャワーの取り付けなど色々な取り組みを社員とともに楽しんで行っている。皆さんもぜひ“トップ”の意識で省エネに取り組んでください。」

今回の講演から、城陽市の後援を受け、チラシなどに「城陽市後援」の文言を入れています。参加者は25名でした。



講師の神野氏



3階の展示コーナー

省エネ、再生可能エネを考える講演会
きょう、城陽で
NPO法人市民共同発電をひろげる城陽の会（理事長 藤原 立命館六大学客教授）は、きょう22日午後2時から、隣の集会所で「省エネと再生可能エネ」をテーマにした講演会を開催。
市の後援を受けて開く連続講座の第1回目。講師に宇治市広野町にあるエーシックの副業で会長、神野勝さん、城陽市在住の省エネもったいないをテーマにした。省エネはトップの意識からを目標に話を聞く、入場無料多くの市民に参加を呼びかけている。

城南新報 2014年11月22日号

省エネと再生可能エネルギーを考える講演会の第2回目。南丹市で、再生エネルギーで地域おこしに奮闘しておられる大西氏に経験や構想をお話しいただきました。今回は本会の会員の方にも太陽光パネル設置後の感想や地域での取り組みの発表も企画しました。城陽市の後援はチラシへの文言掲載だけでなく、広報「じょうよう」に講演会のお知らせを掲載していただきました。参加者は31名でした。

講師の大西氏は、るり溪の近く大河内森林組合の組合長・農家組合の組合長、元南丹市議だったが引退したので地域の役をされています。人口160人60戸（1/1 現在）、もっといるかと思っていたが調べた大西さん自身がビックリしているほど減少していて、何とかしなければ集落（村）がなくなってしまうとの思いから地域の資源を使って集落の活性化を図る一環として大河内地域自然エネルギープロジェクト（OEP）を立ち上げました。小水力発電（螺旋水力システム）の試作を行い、公民館前の農業倉庫に取り付け、再生エネのシンボルとして街灯を点燈させたり森林組合員有志による太陽光発電施設の建設（合計54kw）や自分でも発電所を建設し、今後は風力（レンズ風車）やバイオ発電も考えている、と語りました。

そして、「大河内の村は日本のどこにでもある村、ここで再生可能エネルギーによる村おこしができれば、どこでも可能になると思う。農家の数ほど再生可能エネルギー発電所を

2015年1月18日

「地域おこしを再生エネルギーで」

講師 大西 一三氏 文化パルク城陽

つくって、地域づくりに貢献したい。」と力強く話されました。

3人の地元会員からそれぞれ、電気を点けても用事がすめば消すようになった、寝る前にモニターを見る習慣が付いたなど、節電意識は高くなった、との発言や退職後に仲間5人で会社を設立、ソーラーパネルを設置、その収益で里山のエネルギー利用やキノコハウスでソーラーシェアリングをしているなどの報告がされました。

2015年5月23日

「レンズ風車で広がる風力発電」

講師 岩永 康弘氏 文化パルク城陽

省エネと再生可能エネルギーを考える講演会の3回目。南丹市で工場を経営しておられる岩永氏にレンズ風車についてお話をお伺いしました。岩永さんのお住まいは城陽市、最先端の技術で再生エネルギーに貢献されている人が地元にいることの紹介ともなりました。今回も城陽市の後援を得て、広報「じょうよう」にお知らせを掲載していただきました。また京都府の地域力再生プロジェクトの対象事業となりました。参加者は70名でした。

講師の岩永さんはレンズ風車は九州大学応用力学研究所の大屋教授を中心に開発された発電効率世界一の風車。先生方のアイデアを私たち町工場の仲間と一緒にあって製品にした。ブレードに集風体を取り付けそれがまるでレンズのように風を集めるの

でレンズ風車と名付けられました。出力が上がると同時にとても静かな風車になったと言います。博多湾では海上に浮かべて実験を行っていて直径18mの六角形の浮体に3kw レンズ風車と1.5kwの太陽光パネルを組み合わせたものや、東北ではNHKのロボットカメラを太陽光と風力のみで発電で電力を確保する実証実験を1年以上行っていることなどを話されました。そして今は3基のレンズ風車を連結したマルチロータレンズ風車を開発中。3kw級を3基で10kwのレンズ風車になり、支柱が1本ですむのでコストが抑えられると言う利点があることや、カナダで風車の認証が降りたので、これからは多くの人に普及してエネルギーを自分たちで作る出す、その手助けが出来ればと思っていると語って



レンズ風車 (南丹市の共立機工にて)

くれました。そして「これからは資源をリサイクルする産業が主体となる時代、地球と共生できる産業が必要。再生可能エネルギーで100%賄うことは可能。原発をベースロード電源とするのではなく、地熱発電で原発23基分の能力がある（政府発表）。それにソーラーやバイオを組み合わせればエネルギーは十分にあり、可能だ。戦争は食糧とエネルギーが元でおこる。日本は太陽光・風・水と自然に恵まれている。エネルギーの自給を地球のどこでも行うことが出来れば、世界が平和で豊かな地球が実現する」と訴えられました。

2015年10月24日

「今度は節電所をつくろう！」

講師 朴 勝俊氏 ぱれっとJOYO

省エネと再生可能エネルギーを考える講演会の4回目。今回のテーマは節電、「節電は発電」がキーワードです。無駄な電気は節電することで発電と同じ効果が生まれます。今回も城陽市の後援、広報「じょうよう」にも掲載していただきました。また前回講演から地域力再生プロジェクトの対象事業となった関係で、地域のあり方や地域の方々との交流、知恵を絞る作業を行っています。参加者は37名でした。

講師の朴先生は「経済」という言葉の語源は経世済民、“よをおさめ、たみをすくう”がその意味。原発を動かすことが「経済的」かどうか考えていただきたい、と話しはじめました。

そして、太陽から地球に毎年降り注いでいるエネルギーは消費電力の1万倍。日本にも膨大なポテンシャル（潜在能力）があり、風力だけでも22億kwとされています。福島事故のあと、固定価格買取制度が導入され、太陽光発電の普及には大きな効果があり、住宅用で325万kw、非住宅用で1684万kw（2015年5月時点）、合計で原発19基に相当する発電施設が設置された。さらに増える見込みですが、それだけでいいのか考えてほしい、と節電の重要性を次のように話されました。

「再生エネさえ増えればエネルギー問題は解決するのか。それでは使うだけ発電すれば良いという今までの延長線となる。そこで節電を考えてほしい。例えば消費電力200wの冷蔵庫を同じ性能の100wの冷蔵庫と買い替えると100wの『節電所』を建設したことになる。100wの節電所を1000万世帯が導入すると100万kwの巨大節電所、原発1基分になる。

なんだ、省エネかと思われるが現在のエネルギー効率は11%程度、一次エネルギーの大半は無駄に使われている。省エネの可能性はたくさんある。

電球は節電所の象徴だ。日本中の白熱灯や蛍光灯をLEDに換えると年間電力消費量の約9%（原発13基分）の節電になる。エコプランふくいは商店街や個店の節電所を市民ファンドで建設し大きな節電効果があった。

市民共同発電所から市民エネルギーサービスへ発展して行ってほしい。」と私たちの活動にもエールを送って頂きました。

講演会終了後、節電所“建設”を実践されている福井市と長岡京市への見学会の参加を募り、以下のとおり実施しました。

☆福井市の節電所見学会

日時 2015年11月17日

場所 福井駅前ガレリア元町商店街

参加者 11名

NPO 法人エコプランふくい・吉川事務局長は次のように説明されました。

「エコプランふくいも市民発電からスタートし福井市や、おおい町・若狭町・高島市にも設置することができた。

それらの取り組みが行われている中で私たちの仲間が朴先生の本を読んで「節電所」の取り組みを企画した。言い出してから5年ほどかかったが福井駅前のガレリア元町商店街ほかで実現した。勉強会を積み重ねて、商店街の街灯と5つの店舗・1つの事務所がこれに賛同し、福井信金が適格機関投資家等特例業務を担ってくれたことなどで実現した。市民ファンドは一口15万円で42口=630万円、信金600万円、それに経産省の商店街活性化事業補助金を加えて総事業費は2200万円。

節電所の実績はアーケードで1年前電力消費量が65172kwhに対して15002kwh、節電量が50170kwh、節電試算量が58370kwhなので達成率は86%となるなどほぼ満足のいくものとなっている。」との説明でした。

また、節電所建設に参加された店主の

方からは「電気料金が下がった」との感想を頂いている、とのことでした。

最後に「節電所づくりは大きくはESCO事業に分類されます。エネルギーサービスです。私たちはあれもこれも出来ませんので、電球に特化したESCO事業を行ったと考えるとわかりやすい」との解説があり、事業の性格がよくわかりました。



福井駅前の交流施設・アオッサでの講演(11/17)



ガレリア商店街 9/29 撮影

☆長岡京市の節電所見学会

日時 2015年11月27日

場所 長岡京市中央商店街 アゼリア通

参加者 10人

中央商店街の中小路振興組合理事長は次のように説明されました。

「環境が主でこの街灯LED化に取り組んだのではない、商店街は60店舗、800m・84基（168灯）、電気代は年間90万円、市の補助は1/2。街灯は商店街の運営費から街灯の電気代を賄っているがこれが大きな負担。もう消してしまおうかと言うところまでになっていた。電気代の節約から決めたことです。だから小学生に作ってもらったのも、市販品がないと言うことと製作費を安くあげる手立ての一つとして苦肉の策だった。それが子どもたちには楽しさと地域になじんでいくことになり私たちも驚いている。この取り組みがエコワングランプリで京都では優勝、全国でも2位となって注目を集めるようになり、東京でのプレゼンの旅費、50万円をカンパで送り出してもらいました。教科書にも載りました。」と説明してくれました。そのあと、子どもたちの手作り街灯を見て

まわりました。

中小路さんは、LED化ではいろいろなドラマがあり「街あかり」と言う本にまとめたので是非読んでほしい、と話しておられました。

2回の見学会と城陽市内の商店会会長などに街灯の状況をお聞きする活動などを持ち寄り、2016年1月19日に節電所の取り組みを城陽地域に生かす検討会を開催しました。

節電所・ネガワット・節電所の取り組みを城陽地域に生かす検討会

日時 2016年1月19日

場所 ぱれっと joyo 会議室

参加 14名

概要

朴先生から電力自由化について「今ある原発を動かすのは見かけ上、安い電力になるので使う人が出てきてもおかしくない。しかし、おカネの流れが変わる、変えられる。原発由来の電気を使いたくない人は、再生エネルギーの小売会社に電気代を払うようにできる。」とのプチ講演を頂いたあとこれまでの取り組みについて報告を行いました。

8月31日 城陽市役所管理課の街灯ヒアリング

10月24日 講演会

11月17日 福井駅前の商店街見学会

11月19日 城陽市内5つの商店街訪問

11月27日 長岡京市の商店街見学会

12月5日 アクティ城陽商店街と懇談



長岡京市・ロングヒル特設会議室での説明会

この間の取り組みからの教訓

- ☆ 節電・ネガワットが再生エネルギーによる発電と同様な大切さがあることがわかった。
- ☆ 福井・長岡京の商店街のLED化は電気料金の負担が契機
- ☆ 城陽の商店街は全額補助で負担無
- ☆ 城陽市は平成26年度に防犯灯(蛍光灯20w型)6648灯をすべてLED化している。そしてさらにLED化する方向を持っている。
- ☆ 市の施設については新規建築物の省エネ・太陽光パネル設置などは計画・実施。

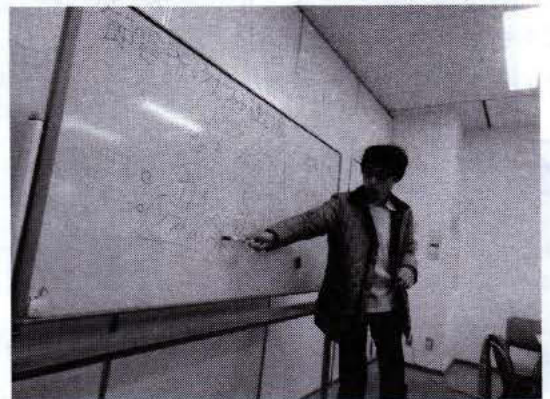
自由討論に移り、それぞれの思いを述べてもらった。(順不同)

- ・街灯のLED化がされていたのは知らなかった、もっと市はPRすべきだ。
- ・冷蔵庫ダイエットのような電球ダイエット(仮称)を地域で行って節電につないでいくとよい。
- ・街灯夜回り隊をつくって節電場所を探そう。
- ・LED化した後の電球や蛍光灯の処分はどうするのか。
- ・日常的に市民にアピールするために(本会にも)ホームページは必要だ。
- ・深谷に居住している、ある時公園の街灯が明るくなった、今でも暗いところがあるかもしれない、探しに行こう。
- ・環境パートナーシップに参加、省エネの出前講座などで毎回50件ぐらいの相談を受けている。今日聞いたこの取り組みは地道で重要な課題だと思う。

- ・宇治では自治会が呼び掛けて街灯のLED化を昨年させた、明るくなったがきつい光だ。
- ・地元でLEDをつくっている星和電機の見学会をしてはどうか。
- ・宇治神社の燈籠に入っている蠟燭のように揺らめいている明かりはLED、大久保のエーシック社が制作した。会長はこの会でも講演をしていただいた神野さん。

今後の方向として次のようなことが話し合われた。

- ・城陽市に対してLED化のPRをもっとせよと言うことも含め、積極的な施策展開を申し入れる。
- ・電球ダイエット(仮称)を地域で展開して行こう。
- ・街灯などの夜回り隊をつくって、街の明かりをLEDにしていこう。
- ・電力の自由化に関連して電気と電気代のことをもっと知ろう。



朴先生のプチ講演、テーマは電力自由化

この検討会での結果と本会理事協議会での論議を経て城陽市に LED 化に関する提案書を提出しました。

平成 28 年 2 月 1 日

城陽市長 奥田 敏晴 様

特定非営利活動法人

市民共同発電をひろげる城陽の会

代表 土居 靖範 印

防犯灯の LED 化効果の市民へのアピール、学校その他の公共施設の蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯の LED 化、市民への協力呼びかけの提案

1、防犯灯の LED 化による節電、温暖化防止への貢献を市民へもっとアピールしてください。

平成 26 年度に防犯灯（蛍光灯 20w 型）6648 灯をすべて LED（8w 型）化され、CO₂ 削減 212,374kg、節電 50% 以上、寿命も 4 倍など温暖化防止に貢献したことを、広報紙等でもっと市民にアピールしてください。1 ヶ月の電力料金の削減 70 万円で工事費用の 9800 万円は 11 年半で回収されること、城陽市内の企業の製品を採用され、工事は城陽市内の 4 業者を起用されたことは市民から歓迎されています。一部未交換の防犯灯（蛍光灯）は灯具の寿命に合わせてその都度交換ということも周知してください。以下省略

電力自由化についての講演会を開催

4 月 10 日には気候ネットワークの田浦健朗氏を招いて電力自由化についての講



電力自由化講演会（撮影：大見 敏之）

演会をくらし・民主・平和・を守る城陽懇話会（略称：城民懇）と共同で開催し、50 名の参加がありました。講師の田浦氏は電力システム改革の必要性や現実に進んでいる方向に対しての批判的な解説などわかりやすく説明され、パワーシフトキャンペーンの呼びかけや電力会社を選ぶ視点、この地域で選択可能な電力会社の紹介などを話されました。

会場からは電力会社を変えた際のトラブルや事務手続きなど具体的な質問が多く出されました。電力会社の変更を優先する考えや、しばらく状況を見て再生可能エネルギー優先を重視する人など、手段に差はあっても、原発と石炭火力から再生可能エネルギーへの変更という目標については参加者が一致した講演会となりました。また、パワーシフトキャンペーンの 5 つの視点を満足する、5 点満点の新電力は、現状ではなかなか困難なこともわかりました。会場からは「城陽電力、京都電力、新関西電力を立ち上げよう」との声が出ていました。

パワーシフトキャンペーンの5つの視点

- ① 電源構成や環境負荷などの情報を一般消費者に開示していること。
- ② 再生可能エネルギーの発電設備からの調達 (FIT 固定価格買取含む) を中心とすること。
- ③ 原子力発電所や石炭火力発電所からの調達はしないこと (常時バックアップ分は除く)。
- ④ 地域や市民による再生可能エネルギー発電設備を重視していること。
- ⑤ 大手電力会社と資本関係がないこと (子会社や主要株主でない)。

あわてて会社やプランを決めなくても電気が止まることはありません。じっくり考えて選んでください。また、切り替えにあたっての費用は特別な場合を除き一切ありません。「メータ交換で費用がいる」などの請求をされたなど契約条件がおかしいと感じたら、経済産業省・電力取引監視等委員会相談窓口 (03 - 3501 - 5725) などにご相談ください。

自由化半年後の11月頃にも状況を踏まえた講演会を開催する予定です。

また、5月28日に環境にやさしい身近なエネルギー、地中熱利用の促進をテーマに講演会を開催、86人の参加がありました。一人一人の行動で省エネ。節電所づくりの活動も昨年度の経験を踏まえて地域に根ざした活動を展開しようと法人役員メンバーは知恵を絞っています。

再生可能エネルギーや節電 (ネガワット) に関心を持っている方、自宅の屋根にパネルを設置したいと考えておられる方、

私たちのNPO法人にぜひ声をおかけください。私たちはあなたの思い実現に向けて応援します。

NPO 法人 市民共同発電をひろげる
城陽の会 理事 杉浦 喜代一
〒 610-0121 城陽市寺田今堀 52-106
TEL/FAX 0774-55-4190

参考文献

- ベーター・ヘニッケ/ディーター・ザイフリート著
朴 勝俊訳 「ネガワット 発想の転換から生まれる次世代エネルギー」 2001年10月25日 財団法人省エネルギーセンター
- 高橋 洋 「電力自由化 発送電分離から始まる日本の再生」 2011年10月21日 日本経済新聞出版社
- 杉浦 喜代一 「地域から脱原発政策と再生可能エネルギー推進の取り組みを「原発ゼロをめざす城陽の会」活動の記録」 京都自治研究第5号 2012.6
- 城陽おひさまプロジェクトNEWS 第17号 2015年6月16日発行 NPO 法人 市民共同発電をひろげる城陽の会
- 城陽おひさまプロジェクトNEWS 第19号 2015年10月27日発行 NPO 法人 市民共同発電をひろげる城陽の会
- 城陽おひさまプロジェクトNEWS 第20号 2016年3月22日発行 NPO 法人 市民共同発電をひろげる城陽の会